

京都府少子化対策基本計画骨子（案）に対する意見募集結果

1 実施期間

平成28年9月30日（金）から平成28年10月20日（木）まで

2 意見提出者数

5人

3 意見の要旨

【結婚支援について】

- ① 婚活支援の活動をしているが、婚活中の男性の大半は女性に対し、「仕事を続けてほしい」と思っているが、女性の半数は「結婚後は今の仕事を辞めて、パート勤務若しくは仕事をしたくない」という意見であり乖離がある。また、住居についても、京都出身の女性のほとんどは「一生京都に住みたい、それも実家の近所にマンションか家を買ってほしい」との意見であるが、京都出身の男性は「実家に同居して欲しい」「実家を継いで欲しい」と譲らないことが多い。その結果、カップルになっても解消してしまっている。このような男女の意見の違いが、女性の未婚化・晩婚化につながっているのではないかと思う。
- ② 骨子は良いと思いますが、実際に実行する現場の人材、内容については、実績のある、または、成果主義のやり方で進めてほしい。現場の人が成果が出て出なくても同じという感じでやられると、頑張ろうとしている参加者がやる気をなくす（婚活）。また、予算の無駄になります。
- ③ 今の活動で会える環境は増えていますが、マッチングする環境がないので、そこを重点的に強化してください。
- ④ 結婚には出会いの機会も必要だが、経済的支援も必要である。若者への経済的支援につながるような取組をもっと実施すべきである。
- ⑤ 一般的な恋愛講座や個別カウンセリングは、その時だけの一時的なモチベーションのアップ、セラピーとしての役割を果たしているだけで、なかなか成婚まで至らないケースが多い。そこで、次の方法にて業務を進めていくことを提案する。
 - (1) 姓名判断師による姓名判断、人相占、陰陽五行説を用いた占いによって、参加者一人ひとりのもともと持つ資質を伝えること、且つ個別カウンセリングによって現状把握を十分に行う。
 - (2) 恋愛・結婚・子育てにおける目標設定を、コーチングの考え方をを用いて明確に行うことで自身のなりたい姿を鮮明にビジュアルライズさせる。
 - (3) なりたい目標に対して最短で辿り着くために必要な心の持ちかた・コミュニケーション能力の養成を継続的に行う。以上の3ステップに沿って、『じぶんを知る』『恋愛の基本を知る』『理想のじぶんになる』を目指す。
また、参加者が個人で受講するような環境するのではなく、
 - ・参加者同士の横のつながりを大事にし、お互いに成長を促しあえる環境

- ・積極的に異性とのコミュニケーションを図るワーク、ゲーム、疑似体験ができる環境という《参加型体験学習》を全6回の講座、2回の併催イベントを通して行う。

【子育て支援について】

- ① 最近、保育所が迷惑施設のように言われておりますが、少子化対策には、これまでのように子どもに関わる団体だけでなく、高齢者団体等幅広い団体が子どもに関わっていくことが重要だと思っております。是非とも様々な人が少子化対策・子育て支援に関わる取組をお願いします。
- ② 子育ては地域でしていくやり方はよいと思いますので推進して下さい。
- ③ 幼稚園・保育園は入園料金が、また熱がでると、親の呼び出しがあるのは対策を打てるようにしてください（地域で育てる）。
- ④ 保育士の給与が安いという課題が大きい。

【総合的な支援について】

- ① 昔のように、祖父母に協力してもらい、専業主婦の環境を構築するのが、一番子育ては安価だと思う。
- ② 子どもを育てている身としては、教育費、特に大学の教育費が非常に負担である。計画では、給付型の奨学金等について、国の動向を見ながら推進とあるが、京都府独自の奨学金について支援をできるところからでいいので実施してほしい。

【雇用関係の整備について】

- ① 子育て支援を民間企業に半強制的に求めると、子育てしない従業員に対してしわ寄せが必ずくるので、その対策は練ってください（何もしないと大企業では、正社員縮小⇒非正規社員化というしわ寄せが来る事になると思われます。）
- ② 少子化対策は、働き方が一番の処方箋だと思っています。長時間勤務をやめ、女性が仕事も子育てもあきらめることなく働き続けられ、男性も子育てに参加できる職場環境が大事です。そのためには、企業も経営者の意識改革が大きく、ぜひとも、京都府として働き方を代える取組をお願いします。
- ③ 「男性の育児休業に向けてた意識改革」とあるが、それだけでは男性の育休取得はなかなか進まない。思い切って、男性も一定期間必ず育児休業を取得しなければならないとする法律の制定を国に求めたり、京都府が条例で男性の育休取得の義務化を掲げることの検討も必要ではないかと思う。